

各位

令和元年5月31日

安八スマートインターチェンジ
地区協議会

E1 名神高速道路 あんばち 安八スマートインターチェンジ
～開通後1年の利用状況及び整備効果について～

平成30年3月24日に開通したE1名神高速道路（E1名神）あんばち安八スマートインターチェンジ（IC）における、開通後1年の利用状況及び整備効果についてお知らせします。

1. 利用状況

- 開通後、1年間の平均利用台数は約4,400台/日
- 累計利用台数は、平成30年11月に100万台を超え、平成31年3月末現在165万台

2. 整備効果

- 企業誘致の促進、雇用創出
平成19年にスマートIC構想が立ち上がって以来、安八町では16社の新規企業進出があり、約700人の新規雇用を創出した。
- 高速道路へのアクセス性の向上
E1名神の最寄りICへのアクセス時間の短縮により、周辺企業の業務効率化に効果を上げた。
（周辺企業から、岐阜羽島ICへ約7分、大垣ICへ約11分の時間短縮）
- 災害・緊急活動の支援強化
救助隊、救助車両及び救援物資をE1名神から長良川・揖斐川を渡らずに直接町の防災拠点施設へ受入れ、搬入可能となる新たな経路が確保された。

3. 今後の利用促進の取組

- スマートIC周辺の土地（農地）を企業立地可能な用途への変更手続き中であり、企業誘致の更なる促進を図る。



安ハスマートIC地区協議会
会長 堀 正 (安八町長)

永年の悲願でありました「安ハスマートインターチェンジ」が開通し1年が経過しました。

これまで多くの方から賜りました、ご理解並びにご協力に対しまして、厚く御礼申し上げる次第でございます。

現在は当初の予想を上回るご利用があり、また期待しておりました効果も徐々に表れ、改めてスマートICの有益性を実感しております。

しかしスマートICをより有効に活用するには、本協議会が目的とする常に現況を的確に把握することが必要であると思っております。

今後とも「安ハスマートインターチェンジ」が真にこの地域の発展、成長につながるよう誠心誠意努力してまいります。

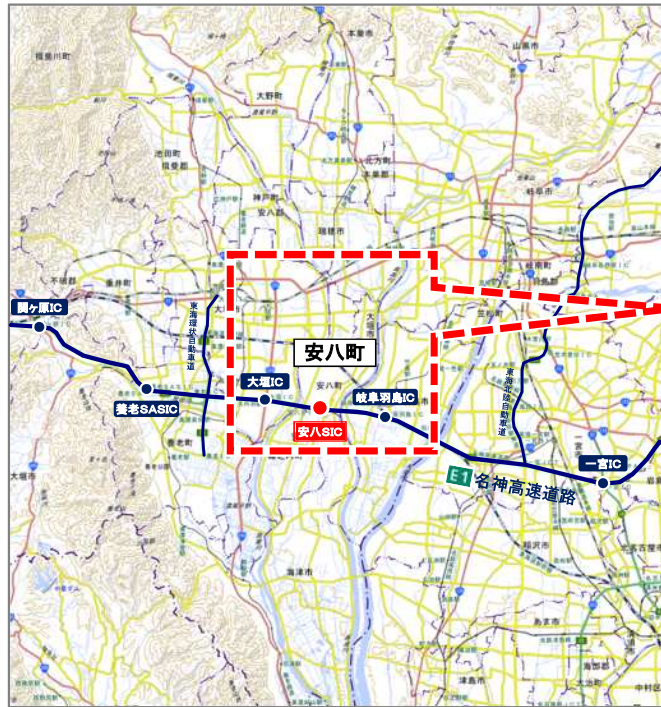
関係各位におかれましては、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

令和元年5月



位置・概要

位置図



地理院地図を加工

概要

道路名	E1名神高速道路
接続形態	本線直結型 フルインター形式
出入方向	全方向（名古屋・大阪方面）
利用時間	24時間
対応車種	ETC車載器を搭載 した全車種 (車長L=16.5m以内)
供用開始	平成30年3月24日

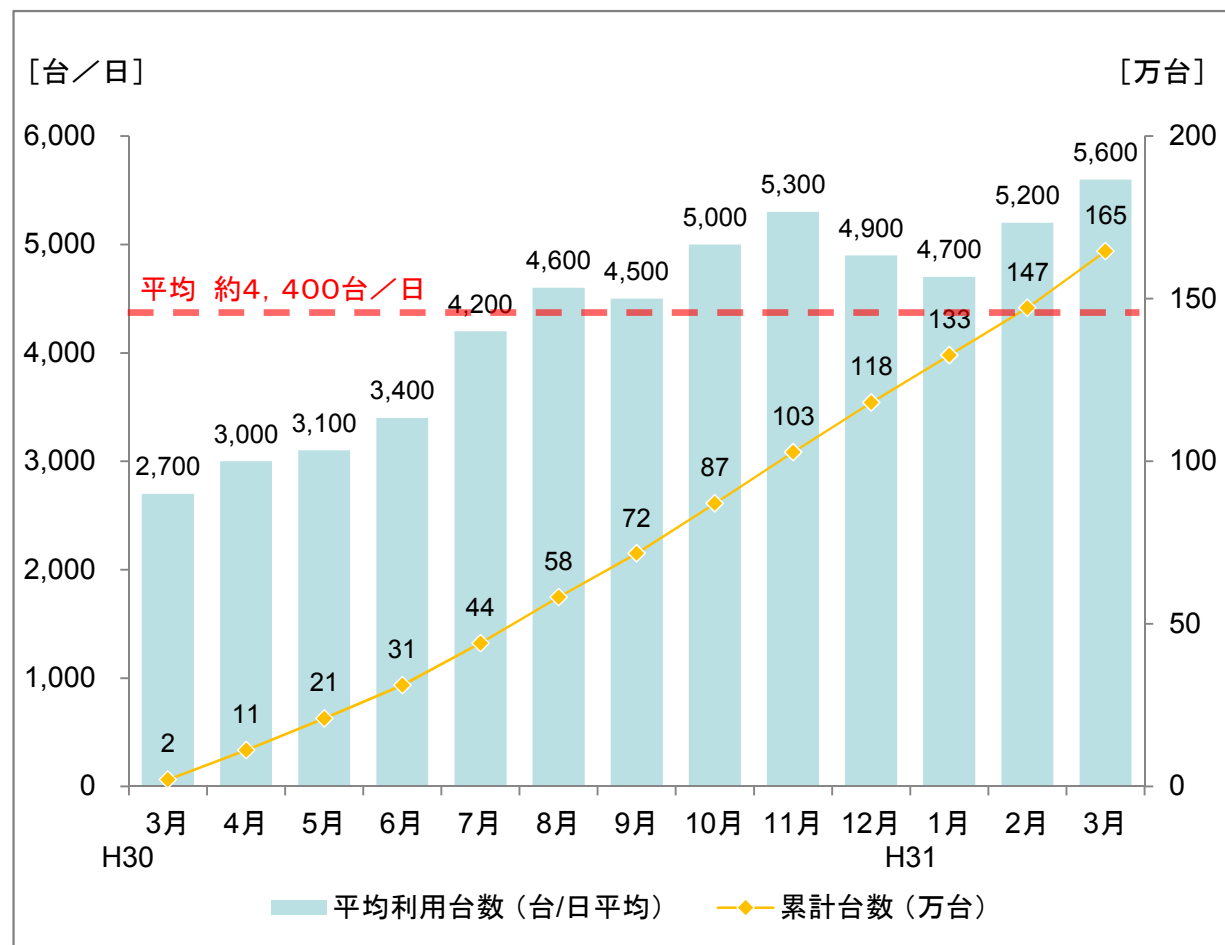


利用状況



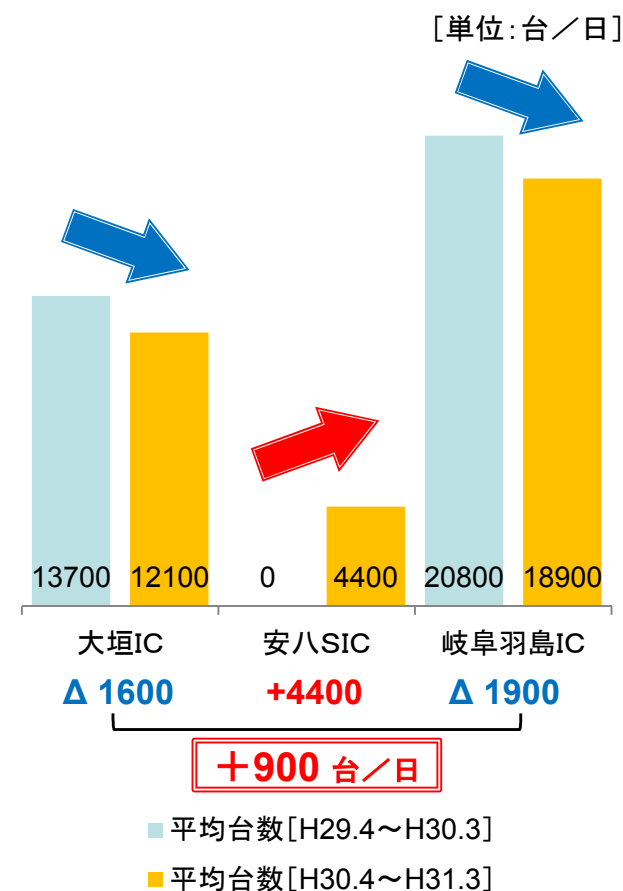
○利用交通量

- ・開通後、1年間（平成30年4月～平成31年3月）の平均利用台数は約4,400台/日。
- ・平成30年11月に累計利用台数が100万台を超え、平成31年3月末の累計利用台数は165万台。
- ・前後のIC区間の利用台数は、スマートIC整備前後で約900台/日増加。また、IC利用の分散化が図られた。



※ H30. 3月の平均利用台数は、開通日（3/24）から31日までの平均値で、累計台数には開通日の値を含む。

IC出入交通量

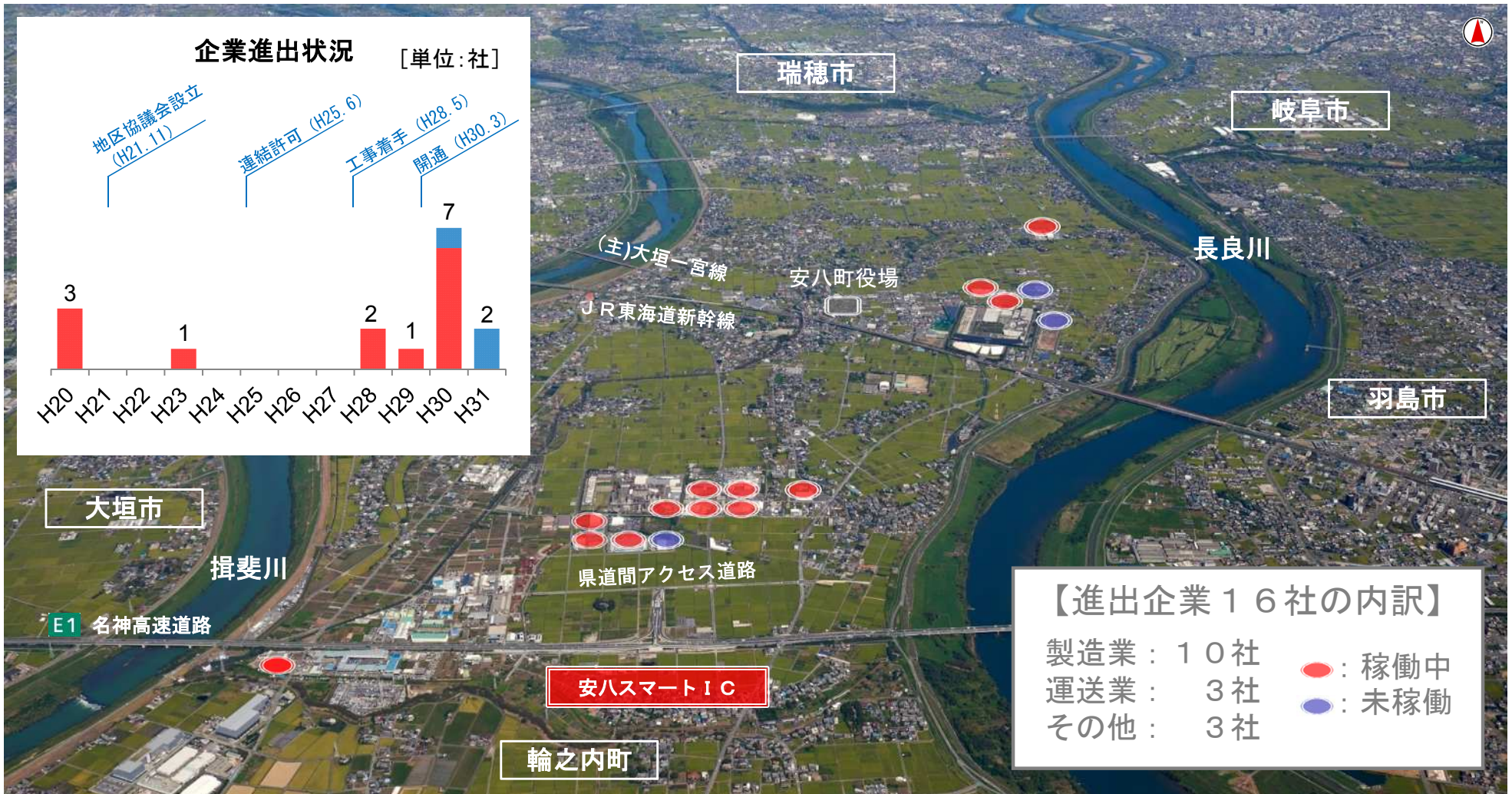




整備効果

①高速道路の利便性向上による企業進出の促進、新規雇用の創出

- ・平成19年にスマートIC整備構想（安八町第4次総合計画）が立ち上がって以来、安八町では16社の新規企業進出があり、約700人（うち町内雇用約100人）の新規雇用を創出した。〔平成31年3月28日現在〕
- ・現在、スマートIC周辺の土地（農地）を企業立地可能な用途への変更手続き中であり、企業誘致の更なる促進を図る。



至大阪

至名古屋



整備効果

①高速道路の利便性向上による企業進出の促進、新規雇用の創出

- ・スマートICの開通が決め手となり、東海・北陸地区でドラッグストア事業を展開するA社では、60億円を投資し、安八町に最大規模の物流拠点を建設中。
- ・当該施設は、岐阜県、愛知県を中心とした約200店舗への商品供給、今後の店舗数増加に対応する基幹物流拠点となる予定。



A社 安八物流センター (2019年稼働予定)

総投資額： **60億円**

延床面積： **約4万2900㎡**

- 賃貸倉庫を解約して**物流拠点を集約**
- 自社運営のプロセスセンターによりアウトパックしていた生鮮食品を**内製化**

⇒ **物流コスト減**

⇒ **収益性アップ**

企業からの声

- ・スマートICの開通が決め手となり、**当社最大規模の物流拠点を建設中**です。
- ・**雇用者は約200名**を予定しています。
- ・愛知県では、**今後200店舗の出店**を目指しています。
(平成30年1月時点：44店舗)

整備効果



②高速道路へのアクセス性向上による揖斐川・長良川渡河部の交通分散

- ・スマートICの開通により、揖斐川・長良川渡河部の渋滞箇所を回避して、町内へのアクセスが可能となった。
- ・周辺企業から最寄りのICまでの所要時間は、大垣ICへ約11分、岐阜羽島ICへ約7分の短縮が図られた。



○ : 主要渋滞箇所

出典：岐阜県域統合型WebGIS

■ 例えば、帝人フィルムソリューション(株)から最寄ICまでの所要時間

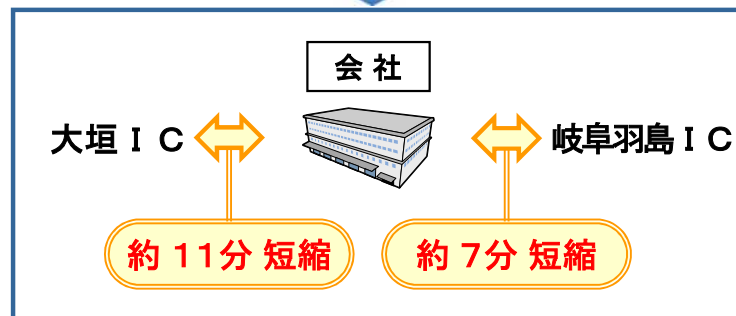
スマートIC開通前

「岐阜羽島IC」～「会社」(羽島大橋経由) 約13分
 「大垣IC」～「会社」(福東大橋経由) 約18分

スマートIC開通後

「岐阜羽島IC」～「会社」(スマートIC経由) 約6分
 「大垣IC」～「会社」(スマートIC経由) 約7分

※開通前の所要時間は、ETC2.0プローブ情報(平成29年7月:平日7時台)
 ※開通後の所要時間は、ETC2.0プローブ情報(平成30年7月:平日7時台)
 ※ICから会社までの利用経路は、企業ヒアリングによる

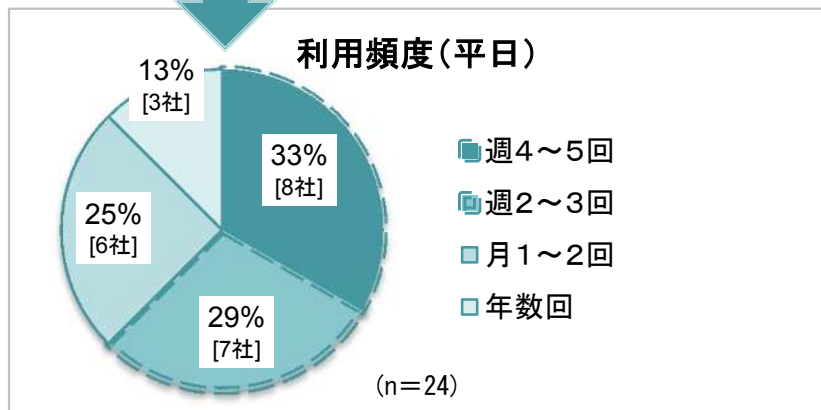
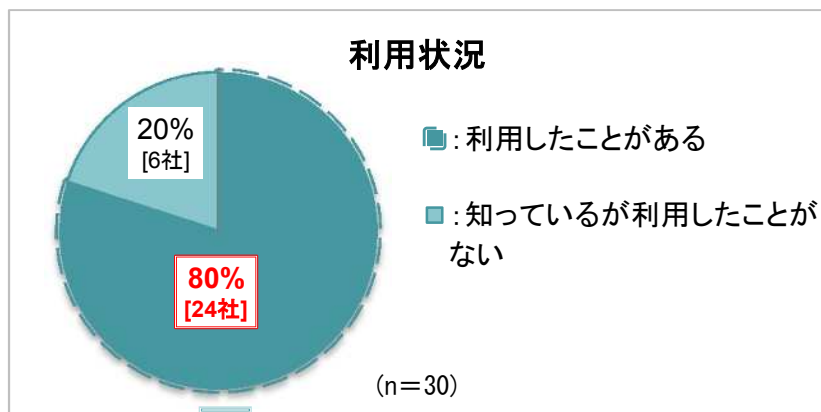


●●●●●▶ スマートIC開通前の経路
 —▶ スマートIC開通後の経路

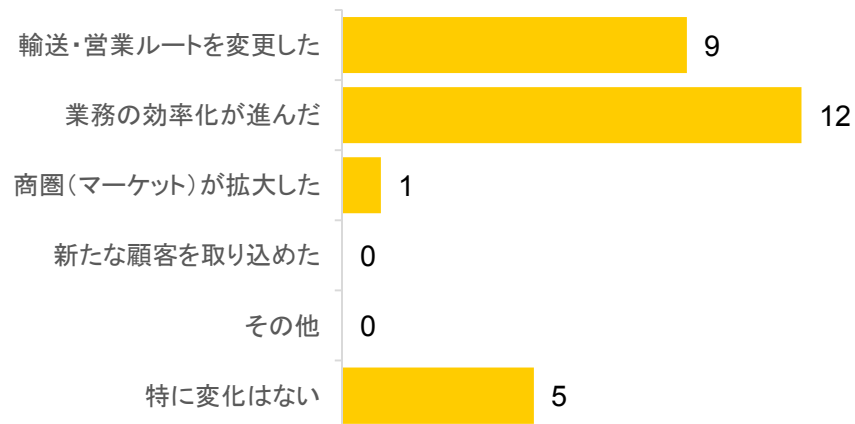
②高速道路へのアクセス性向上による揖斐川・長良川渡河部の交通分散

- ・ 町内企業32社に、利用状況についてアンケート調査 [回答あり：30社・平成31年3月1日現在] を実施した。
- ・ 80%の企業がスマートICを利用しており、そのうち約60%が週に2～3回以上活用している。
- ・ 開通による移動時間の短縮により、輸送効率やドライバーの負担軽減など業務の効率化に大きな効果を上げている。

<アンケート結果（抜粋）>



開通による業務体系の変化（単位：社）



企業からの声

- ・ 製品の輸送、営業等の移動時間が短縮され、労働時間の短縮につながった
- ・ 渋滞回避でドライバーの負担軽減につながった
- ・ 会社までのアクセスが良くなり顧客の利便性が向上した



整備効果

③スマートIC設置による災害や緊急時における緊急避難経路の確保

- ・スマートICの開通により、災害・緊急時における救助隊、救助車両及び救援物資を高速道路から長良川・揖斐川を渡らずに直接防災拠点施設への受入れ、搬入可能な新たな経路が確保された。
- ・開通に伴い、スマートICとアクセス道路の一部を緊急輸送道路（岐阜県緊急輸送道路ネットワーク）に指定した。
[平成31年3月]

